

永泉

日本基督教団瀬戸永泉教会 会報No.262 2024年3月31日発行

巻頭説教 「心が燃えていますか」 横山厚志

二人は、「道で話しておられるとき、また聖書の説明をしてくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。(ルカ 24 : 32)

イエス・キリストは十字架につけられて死なれ、アリマタヤのヨセフの墓に葬られました。それから3日後に、イエス様は復活されました。イエス様が葬られた墓の中には何もなかったのです。その日のことです。2人の弟子が、エルサレムから11キロ離れたエマオという村に向かって歩いていました。1人の弟子の名をクレオパといいます。この2人は歩きながら、イエス様の十字架の出来事を話し合い論じ合っているのです。そこに復活されたイエス様が近づいて来て、一緒に歩き始められます。この時に、2人の目は遮られていて、イエス様だとは分からなかったとあります。

イエス様は2人に、歩きながらどのような話をしているのですかと尋ねています。すると2人は暗い顔をして、イエス・キリストのことであること、この方が神と人々の前で、言葉にも行いにも力ある預言者であったこと、しかし、十字架につけられて殺されてしまったこと、自分たちはその方にイスラエルの解放を望んでいた、3日後の今日、仲間の婦人たちが朝早く墓に行って、遺体を見つけずに戻って来たこと、天使が現れて、イエス様が生きておられると告げられたこと、「仲間の何人かが墓に行ってみると、婦人たちのいったとおりである」などと答えています。この時に、イエス様は2人を厳しく叱っています。「ああ、何と物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちのいったことすべてを信じられない者たち、メシアは苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか」と言って、聖書全体にわたって、御自分のついて書いてあることを説明されるのです。

2人はエマオに近づいて来ましたが、イエス様は先に行こうとされるので、2人は無理に引き止めて、一緒に泊まるようにします。イエス様と一緒に泊まるために家に入られました。一緒に食事の席につきます。イエス様はパンを裂

いて、2人に渡します。すると2人の目は開け、イエス様だと分かりました。すると、その姿は見えなくなってしまいます。2人は「道で話しておられたとき、また聖書の説明をしてくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合い、時を移さず、出発してエルサレムに戻っていきます。そこで、イエス様が本当に復活されたことを弟子たちと共に話し合っているのです。

このエマオでの話ですが、イエス様の十字架の死から悲しみを抱きつつ、エルサレムからエマオに向かって帰って行くのでした。暗い顔をしながらです。この2人の願いは、イスラエルの復興でした。その願いがイエス様の十字架の死によって断たれたことをいっています。その2人に、イエス様は静かに寄り添います。一緒に歩んでくださっています。自分たちの希望を失い、暗い顔をして、自分たちの家に帰って行く2人の弟子たち、この2人の弟子たちは、イエス様の身近なところにいた人たちでした。だからこそ、イエス様の十字架の死は大きな衝撃と失意の中に落とされたのです。

私たちの人生の中にも、このような悲しみの出来事を味わうことがあります。突然の病気になってしまう。大きな事故にあってしまう。愛する者を突然に失ってしまう。大きな災害にあってしまう。人生の中で大きな失敗や挫折を味わう。大きな悲しみの中で自分の家に帰って行く。そのような時に、イエス様はそっと寄り添って、一緒に歩いてくださる姿が、ここでは描かれています。自分の側にイエス様がいることが悲しみの中で気づくことができないでいます。ある時、教会の礼拝の中で、聖餐式の時に、イエス様がいることに気づくのです。イエス・キリストへの信仰によって、気づくことができるのです。



報告

日本建築防災協会 令和5年度耐震改修優秀建築賞受賞のご報告 Y氏

この賞は、耐震改修を実施した既存建築物のうち、耐震性、防災・安全性、意匠等に優れた建築物及び関係者を表彰するもので、全国から毎年約10件が選ばれます。大賞の国土交通大臣賞は名古屋テレビ塔(今年)、国立代々木競技場(昨年)、熊本城天守閣(一昨年)などのビッグプロジェクトで、大賞以外も超有名建築や超特殊耐震改修が多い中、瀬戸永泉教会様が受賞されましたのでご報告とお祝いを申し上げます。

何故このような凄い賞をいただいたのか考えてみました。歴史系の先生は「保存することや過去に遡ること」をお好みですが、今回は機能性向上のために増築棟を付加し、既存部分を一部撤去、外構も全面改修しています。一方、構造系の先生は「新工法や新知見で強くすること」重視で、免震構造や特殊な鉄骨補強等が選ばれがちですが、瀬戸永泉教会さんはさほど珍しくない工法で効率良く耐震化しています。ですので、これらとは別のストーリーが評価されたと考えます。

皆様のご希望を集約し具現化していったら『自然と導かれた』というのが正直な気持ちですが、その中でも長年のご議論の中で『生きたまま残す』決断をされたことと、尚かつ利便性を大幅に向上させることが出来ていることが、「小規模文化財の一番のモデル的な改修事例(三井所先生談)」と審査委員の方々に評価いただけたのだと思います。今回お手伝いさせていただいた事を改めて深く感謝申し上げますとともに、教会と皆様の益々の繁栄を心よりお祈りいたします。この度は誠にありがとうございました。

日本建築防災協会の受賞一覧 HP



東京神田の学士会館で授賞式／発表会の様子

1月28日 教会懇談会報告 K長老

1月28日 礼拝後、教会懇談会を行うことができました。23名の参加者があり、発題(テーマ)は3つ

- ・瀬戸永泉教会規則変更について・・・0長老
- ・オルガン購入について・・・小椋実央牧師
- ・十字架塔と伝道について・・・横山牧師
発題者の説明があり、質疑応答等 約90分。
- ・規則変更について・・・日本キリスト教団には決まった規則が無く、宗教法人規則に基づいて現行の瀬戸永泉教会規則を一部変更したという事。(規則に基づいて運営するものが規約) 変更内容は監事の項目追加、その選挙について追加、長老選挙の方法を記名式から記号式に表記変更。監事の新規追加で細則の会計監査員の項目を削除する。

- ・オルガン購入について・・・オルガン購入の歴史から現在のオルガン、アーレン社・クラシックⅡの主な修理履歴説明がありました。今現在も不具合は有りますが、直ぐに修理しているのではなく、オルガニストが音色を工夫しながら対処しているとの事、今のオルガンは35年経過しており、今後礼拝に支障のないように新しいオルガンの購入を検討する時期に来ているのではないかと判断している。経費費用価格は400～500万円現状の物と同程度のものを想定している。詳細は総会で説明します。

- ・十字架塔と伝道・・・会堂増改築が完了して十字架塔の設置の件は長老会で話に出るものの具体的には進んでいない状況。教会員等の皆様からの提案が欲しいと思っている。伝道についてはコロナ禍の影響で教会内での話し合いが少なくなってしまっていた。今後、教会内で懇談の時を増やしていきたい。

催し物もかねて音楽を中心とした伝道を考えている。今年は7月にハンドベルと12月にオルガンのコンサートを企画し、10月にジャーナリストの桃井和馬氏の講演を予定しています。

(質疑応答)

規則変更について、責任役員は長老8名がいいのではとか、伝道の言葉を前面に出した方がいいなどの意見、規則変更の難しさの説明、文言の解釈の受け方の違い等がありました。オルガン購入については資金については会堂建築献金を使用するは？教会員に献金を募り足りない部分をそれで充当しては？等の意見がありました。十字架塔について費用は会堂建築献金の中に含まれている？の質問、十字架塔の必要性等も意見が交わされました。

教会の歩みの中でそれぞれの思い、意見が交わされて分かり合える群れとなることが出ればと思います。どうか私たちが御心になつた歩みができるように導きを祈ります。

言正し

心残り

T 兄

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。
(マタイ 25 章 35～36 節)

主が飢えていたときに食べさせなかった。

ある日、教会学校に初めてみる中年の男性が来た。子どもの礼拝に出席し、ともに賛美し、祈り、み言葉を聞いた。分級の時間、子どもたちが学びの時を過ごしている間、残ったおとなたちとその男性の身の上を聞いた。品野のあたりに就職が決まって、数日以内にはそこの寮に入れること。彼の話の中でそれしか覚えていない。身なり、しゃべり方、身のこなしに彼の大変な生活がうかがわれた。教会に無心に来たのだろう。教会だったら助けてくれるのではないかと一縷の望みを抱いたのだろう。彼が幼少のころ、フランダースの犬を読んだのかもしれない。

「私たちにできることはなにもありません。」

主日礼拝の席にも座っていた。

新来会者として紹介されたと思う。

礼拝が終わった。彼は教会を去っていった。

礼拝の間じゅう、この人は空腹なのではないかと思っていた。実をいうと確信していた。自分自身が食べ物を買うお金に困っていた時と同じだったから。

礼拝の間じゅう、この人に一食でいいから今日のお昼ご飯をおなか一杯食べさせてあげようと思っていた。菱野町の JA の食べ放題に連れて行ってあげようか、品野の方に行った中華料理屋のランチもボリュームたっぷりでもいいかもしれない。

礼拝が終わった。逡巡した。本当に声をかけていいのか。

車で駅の方に行きながら、道端を歩いていないか探した。

いなかった。

主が飢えていた時に食べさせなかった。

T 兄は埼玉県の清瀬旭が丘教会の長老でいらっやいますが、聖カピタニオ女子高等学校に御奉職のため、6年間瀬戸永泉教会に通われ、CS教師としてもご奉仕くださいました。長年のお働きに感謝するとともに、ご帰郷後のご活躍に主の守りと祝福をお祈りいたします。

イースターの思い出

「イースター」の思い出

I 姉

ついこの前のように、メリークリスマス！の思い出がまだ残っています。「春分の日」の後の、最初の満月から数えて次の日曜日が「イースター」と定められているのだそうです。今年は3月31日がハッピーイースターです。マルコ9章31節「人の子は、人々の手に渡され、殺される、三日の後に復活する」イエス様の預言通り復活されました。私たちには真剣にハッピーなのです。私たちの希望です。

ヨハネ3章16節「神は独り子をお与えになったほどに世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

イースターといえば、すぐに頭に浮かぶ色とりどりのゆで卵と、その卵探しが目には浮かびます。毎年作られるイースターのちらしも楽しみでした。教会の近隣に手分けして戸別配布、新聞折り込みもありました。今年はどこかの公園かな、お弁当を持って、イースター礼拝後すぐに車に分乗して卵探しに出かけました。雨が降ると教会内で実行です。子供も大人も参加です。大人にはハンデイをつけます。受難週連続早天祈祷会もされたことがありました。洗足木曜日にはイエス様の真似をして互いの足を洗いました。これには戸惑いがあり、不人気でした。教会内の飾りも、瀬戸もの祭りで買うのが楽しみでした。野外の卵探しはとても良いことです。家族が参加したり、友達も連れてきたり、日頃お話が出来ない教会の方々とも親しくなり、お弁当も分け合いながら、子供や若い人達のスポーツを見て、楽しみながら、話がはずみます。イースター担当者は探し残した卵はないか、調べます。帰宅への配慮、お互い感謝と次週への挨拶でお別れしました。



聖書豆知識

旧約聖書を紐解く、ということ

小椋 実央牧師

2023年度はチャレンジした年だった。14年間教えた新約聖書を離れて4月から旧約聖書を教えることになった。新約聖書を教え始めた時から、いつか自分の学びのために旧約聖書に挑戦しな

ければならないと思いつつなかなかそのチャンスは巡ってこなかった。旧約を受け持っておられたN先生（広路教会）が金城学院をお辞めになるタイミングで、今がこの時と思って手を挙げた。誤算だったのは成績処理の仕方や試験問題の作成方法もたまたま今年度変わったこと。いや、前から変わると言われていたのに自分が理解していなかっただけか。

昨年まではそれなりに授業のストックがあったので、毎年カリキュラムが変わってマルコがマタイになったり、多少の変更には対応することができた。この単元で必ず話す小嘶というのも決まっていた。しかし今年はそれが1つもない。アブラハムやモーセなど有名な人物ならどうにかなるかもしれないが王国分裂のあたりから怪しくなってきた、こんなことを言ったら呆れられるかもしれないが誰がいつ頃の時代の預言者なのかさっぱり分からない。察しのいい方は、私が説教を担当する時に今年は妙に旧約が多かったことにお気づきだっただろう。しばらくは旧約の説教にお付き合いいただくことになると思う。

先日唐突に「中学生に教えるのは楽しい？」と夫に聞かれて、これまで一度も楽しくないと思ったことがなかったことに気が付かされた。旧約聖書を学べば学ぶほど気ままに熱血な神さまに魅了されたし、だからこんな私でも愛されるんだと思わされるのが何度もあった。だから聖書の学びはやめられないし、この驚きを一人でも多くの中学生と分かち合いたいと思う。瀬戸永泉教会から快く学校に送り出してくださっていることに感謝しつつ、いつも新しい耳を頂いて新鮮な思いでみ言葉を汲み取っていききたい。

讃美歌あれこれ

讃美歌 333 「主の復活、ハレルヤ」

K 兄

イースターの時期の讃美歌です。この讃美歌に限らずイースター関連の讃美歌を聞くと、一番思いつくのは自分自身の受洗の時のことです。受洗後そのまま高校の部活に向かったことを今でも覚えています。今でもなぜ受洗したかのかと問われると、自分でもよくわからないですが、「自分の中のタイミングだった」としか説明ができません。また、その後の生活が何か変わるわけでもなく、教会は自分の生活の一部です。

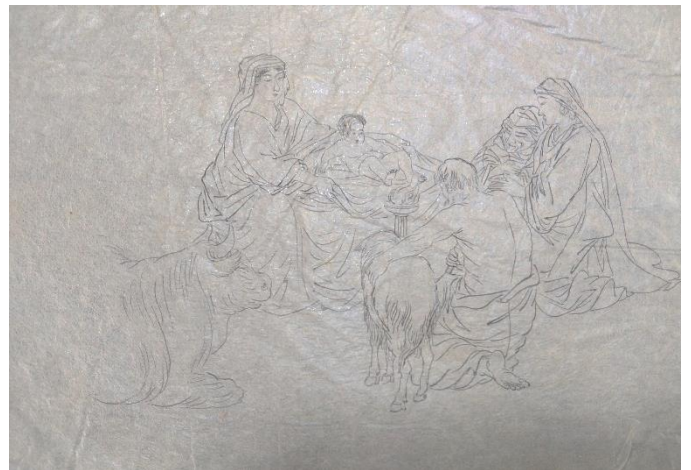
今回この会報永泉を書くにあたり、日常のことを文章にするのは難しく、それほどまでに自分の中の教会の出来事は日常の一部になっているのだと感じる機会でした。今後とも変わることなく生活の一部としての教会と共に、イエス様と歩んでいくことができる者となれますように。

ご案内

120年前に描かれた”やわらかな”線

H 兄

「瀬戸染付の系譜」展で明治期から令和までの歴代に渡る窯屋の作品が、瀬戸蔵ミュージアムで展示されています。中でも明治時代の瀬戸染付け絵師で、瀬戸永泉教会の現礼拝堂の建築にも長老として関わって居られた、加藤T兄が描かれた動植物の水墨画も展示されています。先日も現役で活躍中の瀬戸染付作家の方が絵をご覧になられ、「とても、やわらかな線で描かれている秀作」ですね。と語っておられました。特に、「イエスのご降誕図」の原画は通期展示されています。この機会に、是非、先達者の業に触れられますことを願っています。本展示の期限は、4月21日(日)までです。



【今後の予定】

- ・7月21日(日) ハンドベルコンサート

＝編集後記＝

イースター、おめでとうございます。新しい年度が始まります。教会も徐々にコロナ禍以前に戻りつつあります。行事、催しも活発にして御言葉、御心を伝えていきたいものです。教会規約の変更、オルガンの買い替え、十字架塔等の話し合いも持つことができました。私たち自身の信仰のあり方、伝道の仕方などそれぞれの意見を交わしながら私たちの神様の御心を行う教会へと歩みを進めていきましょう。能登の復興と未だに戦い終えない世界各地に真の平和が訪れますように心を合わせて祈ってまいります。今回も原稿をお願いしました方々、ありがとうございました。

アーメン

K 長老

日本キリスト教団 瀬戸永泉教会

牧師 横山 厚志・小椋 実央

〒489-0822 瀬戸市杉塚町5

電話、FAX：0561-82-2314

ホームページ：[瀬戸永泉教会](#)で検索または⇒

